Rainbow letter

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

2025.2
No. 43

＜連載企画＞ 私たちのまちのメンタルヘルスケア活動 （11）

森町家庭医療クリニック(静岡県周智郡)による周産期メンタルヘルスケア

三倉祐美子（公立森町病院 外来師長, プライマリ･ケア認定看護師）
岩田みち子（森町家庭医療クリニック 看護師長）
岩田智子（浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座 特任助教）
鳴本敬一郎（浜松医科大学地域家庭医療学講座 特任准教授）

森町家庭医療クリニックでの町役場福祉課との合同カンファレンス →

森町家庭医療クリニック（MFMC）は、総合診療医、プライマリ・ケア（PC）看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、看護助手からなるPCチームを形成し、包括的なPCを提供しています。そして、PC医療機関として当事者の生活や身体・精神、生活環境を包括的に捉え継続的にケアをしていく役割を担っています。MFMCでは、総合診療医と産婦人科専門医による妊婦健診を行っています。分娩は他の医療機関となりますが、森町にて妊婦健診が受けられることは、住民にとって利便性が良く需要は高まっています。

近年、産後うつ、児童発達障害、不登校関連の受診人数が増加傾向であり、専門医療機関では早期に対応できない現状があります。そこで、MFMCでは、母子の健康とその背景にある問題へのアプローチをすべく、学校や地域における社会資源と取り組みに関する認識を深め、行政と連携強化を図りながら支援をしていく目的で、年3回の母子ケース会議（会議）を実施しています。会議を実施することで、お互いの役割や機能を理解し顔の見える関係性が強まったことにより、日々の介入事案に対し早期に対応ができるようになりました。実際の事例では、産後うつの母親に対しPC看護師が行政と適時に情報の共有を図り生活面と心理的サポートを継続していきました。また、総合診療医と精神科医が連携を図り薬物・心理療法にて症状の対応を行いました。そしてPC看護師として大切にしている、家族員や患者それぞれが抱く病気に対する考え方や思いを尊重し、家族全体が前向きになるようお互いの意見や思いに寄り添いながら支援を行いました。このような関わりから、夫・親の協力を得ながら母親の心身の安定と育児環境の調整を継続していくことにより、徐々に母親が育児をできるまでに安定し、家族も病気を理解しながら育児のサポートをできるようになりました。この会議を通して、MFMCスタッフは行政の役割について理解を深め、事例について多角的に議論し行政との継続した切れ目のない支援と方向性を統一化することで、個々の具体的なケース対応をしています。今後も連携強化を持続し地域の周産期メンタルヘルスにPC医療機関として包括的に介入し継続的な支援を行っていきます。

学術集会開催報告

大会長・牧野真太郎（順天堂大学浦安病院）

第20回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会の開催にあたり、皆様から多大なるご支援とご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。「少子化時代の周産期メンタルヘルス　一人ひとりを大切に診る」というテーマのもと、数多くの方々にご参加いただき、実り多いディスカッションを行うことができました。様々な分野の第一人者からの講演のみならず、白熱した質疑応答が非常に印象的で、多職種が集まって議論することの大切さを改めて認識いたしました。患者さんにベストなケアを提供するという共通の目的のために、産婦人科医師、精神科医師、助産師、看護師の皆が真っ正面から向かい合い議論をしている皆様の姿を拝見して、周産期医療の未来はまだまだ明るいのだと確信しました。

改めて、ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げるとともに、今後の更なる発展を祈念いたします。

第21回 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

大会長 春名めぐみ(東京大学大学院医学系研究科母性看護学・助産学分野)
2025.9.26(金)-27(土)　一橋講堂(東京) 現地/オンデマンド
https://procomu.jp/pmh2025/

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会　情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。
ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。